

嘉祥陽春



嘉祥陽春（かしょうようしゅん）

うつくしいあたたかな春をよめる。

世界中の隅々まで、

平和で幸せな年でありますように。

新春の御祝詞を申し上げます。



新年のごあいさつ

理事長 浅林 孝志

新年明けましておめでとうございます。旧年中は私ども北陸経済研究所の活動に対し、格別のご支援、ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

2022年は、新型コロナウイルスの脅威だけでなく、ロシアのウクライナ侵攻、安倍元首相の銃撃死、米中対立の激化、北朝鮮・台湾の安全保障問題など、ショッキングなニュースが多く重苦しい1年となりました。夏には気候変動に伴う記録的な猛暑、異常な干ばつ、大規模な山火事、洪水などが頻発し、今も世界規模でさまざまな自然災害が発生しています。11月には世界の人口が80億人を突破し、貧困、食糧問題のさらなる深刻化も懸念されます。

一方、日本はピーク時に270万人であった出生数が昨年には80万人割れとなるなど少子化の加速はとまらず、高齢化率も過去最高の29.1%と、人口減少や少子高齢化、社会保障負担の増加など多くの課題を抱えたままです。さらに、米ドルの利上げにより1ドル150円をつけた32年ぶりの円安水準、エネルギー価格の高騰や海外の急激なインフレの影響を受けた40年ぶりの物価高など、新たな課題に直面しています。小誌ではこの歴史的な円安や資源価格高騰を受けて、「円安、輸入物価上昇による北陸への経済的インパクト」を自主調査として取り上げました。

ほかにも国内外の情勢の変化を捉えてさまざまな特集を組んできました。企業にとって社会的課題を身近なものとするために、「企業価値向上のための脱炭素経営におけるメリットとリスク」や「SDGsの実践における課題」を明らかにしました。また、英国産業革命以降普及していた職場と住居の分離が、コロナ禍を機としてオンラインが活用されるようになり、在宅勤務や副業・兼業などの職住接近が可能となりました。そこで働き方の選択肢が増えたことに着目し、「副業・兼業人材の活用のマネジメント・ノウハウ」や「多様化する人材の育成方法」を取り上げています。加えて、「2022年度新入社員意識調査の結果から」では、北陸3県のZ世代を対象としたアンケート調査から彼らの職業観も考察しています。

2024年春に敦賀延伸が予定されている北陸新幹線についても、金沢・富山～長野駅開業から7年経過した北陸新幹線が地域に与えたインパクトを「再起動 北陸新幹線」と題してシリーズ企画で改めて検証しております。

本号掲載の新春対談「**英国王室と政治の歴史に探る日本復活のカギとは**」では、2022年6月に在位70年を迎えたエリザベス女王が9月に崩御されたことから、近現代イギリス政治外交史が専門の関東学院大学教授の君塚直隆氏に、大英帝国最盛期という上り坂に在位した「ヴィクトリア女王」と第二次世界大戦後に英国病と称されたほどの下り坂に在位した「エリザベス女王」という二人の偉大な女王を中心に歴史を語っていただきました。同じ島国である英国の歴史を振り返ることで、日本復活の糸口を探っています。

さらに本年2月21日には、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社エグゼクティブエコノミストの門間一夫氏を講師として迎え、「**内外経済と金融経済**」と題した新春講演会にご登壇いただく予定です。日本銀行金融政策担当理事であった門間氏に、今後の金融・財政政策を含めて「日本経済の見えない真実」に迫っていただきます。

北陸経済研究所は本年も北陸の民間シンクタンクとして、北陸地域の経済研究や調査だけでなく、経営相談や講師派遣、セミナー・企業研修による人材育成支援、地域経済の活性化・地域創生支援など、地域とともに新しい価値観を創造するために、皆様へより一層的確で質の高い情報提供と提言を行ってまいります。そして、2023年が日本の将来を担う子供たちにとって輝かしい未来を築く起点の年となることを願っています。

本年が皆様にとって良き年となることを祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。